

ひょうご 県知協 NEWS

〈兵庫県知的障害者施設協会機関紙〉

発行

兵庫県知的障害者施設協会

〒669-1353

三田市東山898-1 東山荘内

発行責任者 婦 木 治

TEL (079) 568-5771

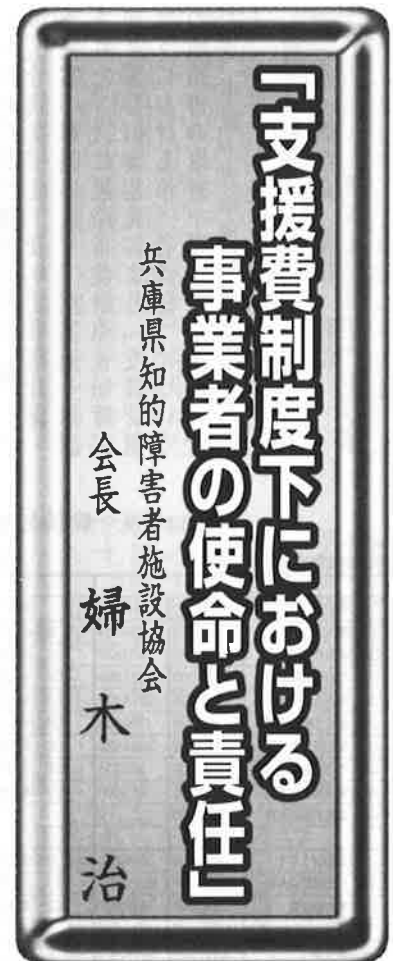
FAX (079) 568-1052

E-mail: higashiy@basil.ocn.ne.jp

印刷所 株式会社アカツキ印刷

支援費制度移行前の平成14年度の騒然とした状況とは違い、平成15年度は各事業所において障害程度区分の決定と支援費支給決定のための聴き取り調査が本格化してきました。昨年の支援費単価の問題は一応の落ち着きを見ましたが大規模施設を中心に激減しておりますし、居宅生活支援費についてはホームヘルプ事業の上限問題、デイサービスの単価、療育等支援事業の一般財源化など今後課題が先送りされました。

そこで、新しい制度に移行後4ヶ月経過した現状で、サービス提供事業者としてサービスご利用者に対して、根本理念である本人主体、自己選択、自己決定、対等な関係と契約など本来にそのニーズに応えるだけの体制が出来ているのかを検証しなくてはなりません。ニーズがあっても利用する社会資源が乏しく、その情報提供すら十分でないことがあります。それはそのエリアの行政等の責任なのでしょうか。必要とされるサービスが無いなら作っていくことが必要なのですがニーズが希少であることで不採算のため取り組まないということがないでしょうか。やはり、この役割は社会福祉法人にあるのではないのでしょうか。近年の社会福祉法人の経営に関してはかなり厳しい現状にあるのは確かですが制度改革があるとも旧来の施設運営を踏襲し、今なおそのエリアの福祉ニーズとミスマッチを起こしているところはないでしょうか。ここで考えたいのは社会福祉法人としての使命とその存在意義です。不採算部門ばかりをやるといふのではなく、経営として成り立つ部門は当然やらなくてはなりません、社会福祉法人がそのエリアにあることの存



在意義を真剣に考えた経営をやるべきです。社会福祉法人が掲げている独創的な理念も結構ですし、取り巻く住民の福祉ニーズへのきめ細やかな対応に精一杯応えていくことも使命であります。そして事業所が何よりも頼れる総合支援センターとしての機能の発揮が非常に大切な部分なのです。

支援費制度に移行して日はまだ浅く、調整段階ではありますが、市町への事務委譲によるさらなる行政との緊密化など評価面もありますが、ケアマネジメントの部門を担う役割が弱く、真のニーズに的確に対応した個別支援プログラムが提示されていなのではないでしょうか。その上、サービス調整会議や入所調整機能などが課題となつて残っています。

最後に、支援費制度になったばかりですが、もう介護保険制度に移行していくと時期まで断定する学者もいるなかで、国が示してくる施策内容をみてもやはり介護保険なのかと思います。ですから、今後は事業者自身が先見と決断のもとに的確な変革と責任を果たしていかなないと本当に大きなリスクを背負うことになるのではないのでしょうか。

「県知協総会」 開かれる

平成十五年度兵庫県知的障害者施設協会総会が四月三十日（水）に神戸六甲荘において開催された。

総会の開会に先立ち、協会会長婦木治より「措置費から本年度より支援費制度へと移行し、制度の理念を現実の支援に活かしていくことが施設関係者の責務であります。説明や契約等手続きで終わるのではなく、苦情・希望など今までになかったことが出てくるでしょう。当協会においても情報交換を密にし、関係機関とも調整を行なっていくかなければなりません。……人権侵害等の苦情が様々な方面から多数報告されております。あつてはならないことでもありますので、ひとつでも問題がなくなるように、またきちんとした解決がなされるよう、確認し合ってすすめていかねばなりません……支援費制度は施設で働く職員にとっても素晴らしい理念であります。十分に知識と認識を高めていただき兵庫県下の知的障害者福祉の向上に努めていけるようご協力いただきたい。……」等の開会の挨拶があり、続いて来賓の兵庫県健康生活部長神田栄治様・神戸市保健福祉局参与大下智則様よりそれぞれご祝辞を頂戴したのち、ご来賓全員の紹介がなされた。

次いで平成十五年施設協会の永年勤続表彰が行なわれ、会長より本年度該当者三十六名を代表して、ワークセンターいわや治登世子氏に感謝状が贈呈された。また平成十五年



永年勤続の感謝状を受けられた治登世子さん（ワークセンターいわや）

度新任施設長の紹介が行なわれた。休憩ののち総会に入り、事務局より総会成立（出席者147名・委任状101通）が確認され、三美育成寮の吉見直人施設長が議長に選出され、議事に入った。

まず、第一号議案として、平成十四年度事業報告・決算報告・監査報告の承認がなされ、続いて、第二号議案の役員改選が行なわれ、別記のとおり新役員が選出された。続いて、第三号議案平成十五年事業計画・予算案の審議に入り、原案通り承認された。次に姫路市健康福祉局障害福祉課谷口泰治氏により「支援費制度下における第三者評価」についての姫路市の取組や現状をご講演いただき、平成十五年総会は終了した。

新役員紹介

副会長 福田 和臣
（播磨地区会長） 愛心園

平成14年度一般収支決算書

兵庫県知的障害者施設協会 平成14年4月1日～平成15年3月31日					
支出			収入		
科目	予算	決算	科目	予算	決算
31 事業費支出	14,669,000	11,366,979	41 事業費支出	13,519,000	10,736,744
01 研修会等事業費	1,890,000	1,073,435	01 研修会等事業収入	1,890,000	1,212,001
02 社会啓発事業費	3,500,000	2,891,368	02 社会啓発事業収入	2,900,000	2,527,000
03 地区活動事業費	3,165,000	2,818,553	03 地区活動事業収入	3,165,000	2,818,553
04 部会活動事業費	1,164,000	1,641,130	04 部会活動事業収入	1,164,000	1,770,000
05 受託事業費	3,900,000	3,846,855	05 受託事業収入	3,900,000	3,802,190
06 その他事業費	500,000	365,876	06 その他事業収入	500,000	199,000
07 職員啓発事業費	250,000	213,962	07 職員啓発事業収入	0	0
08 調査研究事業費	300,000	0			
32 分担金支出	7,400,000	7,649,250	42 分担金収入	7,400,000	7,649,250
01 日本福祉協会費	5,800,000	6,025,250	01 日本福祉協会収入	5,800,000	6,025,250
02 県社協会費	1,600,000	1,624,000	02 県社協会収入	1,600,000	1,624,000
33 事務費支出	5,360,000	5,768,461	43 事務費収入	5,900,000	6,099,600
01 賃金	2,410,000	1,266,740	01 会費収入	5,900,000	6,099,600
02 旅費	340,000	373,795	44 補助金収入	400,000	540,600
03 一般物品費	150,000	128,157	01 補助金収入	150,000	190,600
04 印刷製本費	300,000	1,203,960	02 助成金収入	250,000	350,000
05 会議費	100,000	92,047	45 寄付金収入	200,000	150,000
06 役務費	500,000	569,072	01 寄付金収入	200,000	150,000
07 燃料費	110,000	150,360	46 繰入金収入	0	0
08 光熱水費	150,000	150,000	01 特別会計繰入金収入	0	0
09 雑費	1,300,000	1,834,330	47 引当金戻入	0	0
34 繰入金支出	0	0	01 特定引当金戻入	0	0
01 特別会計繰入金	0	0	48 雑収入	310,000	605,677
35 雑支出	0	0	01 利息収入	10,000	3,291
01 特定引当金	0	0	02 雑収入	300,000	602,386
小計	27,429,000	24,784,680	小計	27,729,000	25,781,871
予備費/時期繰越金	300,000	997,181	繰越金取り崩し		
合計	27,729,000	25,781,871	合計	27,729,000	25,781,871

平成15年度収支予算書

兵庫県知的障害者施設協会 単位：千円			
支出		収入	
科目	金額	科目	金額
31 事業費支出	12,932	41 事業費支出	11,832
01 研修会等事業費	1,545	01 研修会等事業収入	1,545
02 社会啓発事業費	3,100	02 社会啓発事業収入	2,600
03 地区活動事業費	3,504	03 地区活動事業収入	3,504
04 部会活動事業費	583	04 部会活動事業収入	583
05 受託事業費	3,400	05 受託事業収入	3,400
06 その他事業費	350	06 その他事業収入	200
07 職員啓発事業費	250	07 職員啓発事業収入	0
08 調査研究事業費	200		
32 分担金支出	7,696	42 分担金収入	7,696
01 日本福祉協会会費	6,058	01 日本福祉協会収入	6,058
02 県社協会費	1,638	02 県社協会収入	1,638
33 事務費支出	5,580	43 事務費収入	6,136
01 賃金	2,580	01 会費収入	6,136
02 旅費	400		
03 一般物品費	100	44 補助金収入	550
04 印刷製本費	500	01 補助金収入	200
05 会議費	100	02 助成金収入	350
06 役務費	600		
07 燃料費	150	45 寄付金収入	150
08 光熱水費	150	01 寄付金収入	150
09 雑費	1,000		
34 繰入金支出	0	46 繰入金収入	0
01 特別会計繰入金	0	01 特別会計繰入金収入	0
35 雑支出	0	47 引当金戻入	0
01 特定引当金	0	01 特定引当金戻入	0
小計	26,208	小計	26,673
予備費	465	繰越金取り崩し	
合計	26,673	合計	26,673

第十二回

ひょうご・ゆうあいスポーツ大会

スポーツ担当 井上久芳

平成十五年五月十日(土)に、三木市の三木山総合公園陸上競技場をメインに九会場で、知的発達障害を持つ人たちの祭典「第十二回ひょうご・ゆうあいスポーツ大会」が開催されました。

この大会は、知的障害者のスポーツの一層の発展を図ると共に、県民の知的障害者に対する理解と認識を深め、知的障害者の自立と社会参加の促進に寄与することを目的としています。主催は兵庫県・兵庫県知的障害者施設協会・兵庫県手をつなぐ育成会・兵庫県障害者スポーツ協会でしたが、三木市ははじめ、三木市体育協会の各競技団体の皆様や地元ボランティアの方々の絶大な協力とご支援をいただいたことに御礼申し上げます。

今年は天候にも恵まれ、当日は兵庫県下から脚自慢、腕自慢の選手達が二、二〇九人と来賓・ボランティア・保護者・職員等が一、三〇九人の総勢三、五一八人が集い、初夏の眩しいばかりの日射しの中、各競技

が盛大に実施されました。

開会式で「三木精愛園」の本木玲子さんと岡本正信さんの両名が「正々堂々と最後まで戦うことを誓います」と力強く選手宣誓をしてくれました。その後、各競技に入りま

した。今年の競技種目は、陸上競技をはじめ、水泳・卓球・ボウリング・フライングディスクの個人競技とソフトボール、サッカー、フットベースボール、バスケットボール、バレーボールの団体競技の十種目で熱戦が繰り広げられました。

陸上競技場での最初の競技は五〇m走で重度の障害を持った選手が各人の能力に合った、力いっぱいプレーを見せてくれました。その後の種目は記録との戦いで、全選手が自己記録を伸ばすために頑張ってくれました。また、其々の競技会場でも選手達が一生懸命に頑張り、好記録がでる等熱気溢れる大会でした。

今年は競技種目によってはルール改正を行なったため多少戸惑った選

手の方もおられたようですが、今後は全種目について、全国障害者スポーツ大会のルールに準じて実施する予定であります。

本大会は今年十一月八日、九日、十日に静岡県で行なわれる第三回全国障害者スポーツ大会出場選手の選考会も兼ねており、入賞者の中から兵庫県選手団のメンバーを決定します。



選手宣誓をする本木玲子さん、岡本正信さん(三木精愛園)

団体競技の結果は以下の通りです
◎バスケットボール 男子

- 一位 県立赤穂養護学校
- 二位 共に歩む会B
- 三位 共に歩む会A

バスケットボール 女子

- 一位 共に歩む会
- 二位 県立こやの里養護学校
- 三位 県立赤穂養護学校

◎ソフトボール

- 一位 県立高等養護学校
- 二位 共に歩む会
- 三位 あぜくら作業所

◎バレーボール 男子

- 一位 朋友会
- 二位 県立高等養護学校
- バレーボール 女子

一位 朋友会

◎フットベースボール

- 一位 県立高等養護学校A
- 二位 養徳会A
- 三位 県立高等養護学校B

◎サッカー

- 一位 いなみ野FC
- 二位 共に歩む会
- 三位 県立高等養護学校学校

平成十八年に兵庫県で開催される第六回全国障害者スポーツ大会が間近になり、それに向けての選手の育成や、「ひょうご・ゆうあいスポーツ大会」の開催方法等を検討しなければなりません。問題が山積していますが関係者の皆様のご協力とご支援をいただき運営にあたりたいと思いますのでよろしく願います。

平成15年度

新任研修会報告

研修委員長 小松正和

去る平成15年7月8日(火)に標記新任研修会を明石市生涯学習センターで開催しました。当日早朝に自動車専用道で事故があった為、明石付近の道路は大渋滞でした。関係者が会場まで来られるかはどうか心配を致しましたが、大きな混乱もなく参加者111名の参加を頂き無事に開催する事が出来ました。

講師は昨年同様施設協会の婦木治会長と蓬萊和裕副会長にお願いしました。午前中は「施設の役割と制度について」と題して婦木会長に、「施設職員の心構えについて」と題して蓬萊副会長に講演頂きました。午後からは申込み時に頂いておりました疑問や質問に両講師にお答え頂く形で進めさせて頂きました。残念ながら頂いた質問全てにお答えはできませんでしたが、時間にして3時間半(途中ほんの少し休憩は取りました)が、本当に熱心にお答え頂きました。講演や質疑の内容は勿論ですが、両氏のこの前向きでひたむきな姿勢を学べて良かったとの感想が多くあったことをお伝えし、研修会の概略の報告とさせて頂きます。以下参加頂きました皆様のご感想を掲載させていただきます。ご執筆頂いた皆様ご協力ありがとうございました。

— 新人として —

上野丘学園(児童入所) 酒井輝美

「あなたは今までの施設に就職しましたか。」それが、一番最初の質問でした。でも私は、その場で答えることができませんでした。この2ヶ月、毎日を終え、任された仕事を覚えることに必死で、忘れていたような気がします。「障害者と健常者がもっと分け合えて、お互いにとって暮らしやすい社会になる」といいな。その為には、障害者の事をもっと知らないといけない」と思い、そしてこの仕事に就きました。

この研修で、いろんな人が、この仕事に戸惑い、分らない事だらけの中、頑張っている事を知り、少し勇気付けられました。また、話して下さった先生方も、分らない事がまだまだあるとおっしゃっていたので、人間同士分り合うのは、難しい事なのだなあと思いました。利用者の事をよく診て、声に耳を傾け話をし、少して早く信頼関係を築いていけるように頑張りたいと思います。

木の根学園(通所授産) 上野知春

今回の研修では、「自己覚知」ということを改めて考えさせられた。確かに私たち支援者も感情のある人間である。しかし利用者と直接関わる援助者として、自分の感謝や心の乱れを相手に向けることは最も恥ずべきことのひとつであり、支援者としての資質を問われることでもあると思った。支援者である私たちも感情のある人間であるからこそ自分

の心身の状態を見つめ自覚することが必要であり、時には自分でコントロールしなければならぬ。自分を常に客観的に見つめ、心に余裕をもっていないかならぬと思った。また今回の研修には、これまでの施設職員としての自分を振り返るよいきっかけになった。最初に学んだ施設職員としての心構えを忘れず、支援者としての資質や意識を高めていきたい。

砂子寮学園(重心) 宮崎菜苗

先日の新任研修会の中で一番印象に残ったことは「入所」施設に対する世間の見方についてのお話でした。講義の中で「入所施設を一部ではあるが収容所というところえ方もある」というお話がありました。やはり新聞やTV等で大きく取り上げられるのは施設内での虐待等、事件の方が多くと思います。その為に情報があまく行き届かず障害者の入所施設に対する間違った理解をされている方ができたのではないかと感じました。そんな中では仕事をしていく私達はもっと世間の中に「入所」施設の事を理解してもらう必要があると思います。そこで私達にできることはまず一番身近な存在である地域の方々に理解をしてもらうことだと感じています。きつとすぐには「入所」施設の意義を定着させることは難しいと思います。施設のイメージをよくするのも悪くするのも職員次第だと思おうので身近な地域の方々と積極的に交流していく等して一人でも多くの人にありのままの施

設を理解してもらいたいと思います。

あかりの家(入所更生) 濱口直哉

沈丁花の淡い香りに包まれた辞令交付から早いもので3ヶ月が過ぎ、すっかり辺りは太陽の日射しを浴びた向日葵が咲き始めています。その間、無我夢中で自閉症の「療育」の視点探しに明け暮れた日々は、様々な発見や喜びそして苦悩の連続でした。

そんな中、この度、新任職員研修会に参加させて頂き、社会人としての心構えから施設の今後の展望、また具体的支援の方向性や誰もが抱えている「不安」と「疑問」の部分に至るまで、明確かつ丁寧に解説して頂きありがとうございました。

あかりの家では、「受容と主導のバランスをもった『関係作り』とわかり易い『環境作り』ができるかどうか、それによって力量の半分が決まる。それによって、自閉症の人達は生きやすくなる」といった「共通確認」がありますが、今回の研修を通して、「環境」の重要性を改めて認識することができました。今後は、その様なポイントを念頭に置きつつ、「人」と「人」の関係の中で利用者の内面を正面から受け止めた支援が行なえるよう、日々努力していきたいと思っています。

最後になりましたが、この日集まった約100名の「同志」が、今の新鮮な気持ちを忘れることなくいつの日か成長した姿で再会できることを楽しみにしています。

地区情報

阪田地区

プロ顔負けのマジックショー

社会福祉法人ユウカリ福祉社会就労センター（S.E.L.P）
猪名川園支援員 菅 和章

普段は猪名川園の支援員として知的障害を持つ人たちの作業や生活の支援をするのが私の仕事ですが、休みの日にはもうひとつの顔を持ち活動しています。実はもうひとつの顔というのはマジシャンなんです。休みにはステイ衣装に身を包み地域のイベントや福祉施設の慰問等を行っています。

もともとマジックという分野に興味があったことと、当時から福祉施設で勤めていたので何となくレクレーションにでもとはじめた趣味なのですが、今となってはどっぷりと浸かってしまいいまもう6年になります。はじめは園のクリスマス会や行事等で行っていた程度でしたが気が付けば休日はいつもどこかでマジックショーをするようになってしまいました。もう趣味が仕事かわかりません？ コンテストに出場したりテレビに出てみたりと活動の幅はどんどん広がっています。

地域の社会人クラブに所属して仕事が終わると仲間たちと一緒に練習しています。私もその中の一員として余暇の時間を楽しく過ごしています。



Mr.マリックと共演

ができます。大人から子供まで障害があってもなくても皆さんが楽しめるところが好きですね。最近ではそんな私のマジックに興味を持ってくれたのか利用者の方から「私もやってみたい」といった希望が出てきました。今では年末の行事クリスマスマジックを覚え発表しています。たくさんの方の前で緊張した表情で演技し、仲間たちから拍手をもらい喜ぶ彼らの笑顔がとても印象的です。私にこんなことができるんだ。そう思える気持ちがある新たな可能性の発見になるかもしれないですね。

また、マジックは仕事の分野でもおおいに生かされていると思います。・・・といっても、あつというまに仕事が終わったりするわけではありません。通常ありえない現象を現実的な手法を用いてみせる。そういったマジックのアプローチは仕事においても生かされます。目標がありそれに対してあらゆる角度から見てさまざまな方法を用いて問題解決に取り組む。自分自身マジックをはじめたようになり頭が柔軟になってきたように思います。

一出演歴一

- 1999 第28回 関西奇術連合会主催 奇術の祭典に出演
- 2000 第29回 関西奇術連合会主催 奇術の祭典に出演
- 2001 ICMマジックコンベンション コンテスト出場
ブルーメの丘 大道芸コンテスト出場
- 2002 大阪国見本市 ゲスト出演
第31回 関西奇術連合会主催 奇術の祭典に出演
ICMマジックコンベンション コンテスト出場
ブルーメの丘 大道芸コンテスト出場
西宮福祉緑日 ゲスト出演
テレビ大阪「なにこれ」出演 Mr.マリックに師事
ハートフルフェスティンひょうご ゲスト主演
- 2003 第32回 関西奇術連合会主催 奇術の祭典に出演

神戸地区

目指すはサザンオールスターズ

簡井宮オールスターズ

代表 広田 みのり

昭和63年、私たちは誕生した。作業所の余暇活動の一環で音楽クラブがスタート。楽器が弾ける人が何人かいたの、バンドのような形で取り組む。バザーの客引きや老人ホームの慰問などで活動をしているうちに、ほとんどのメンバーが就職や他の事業所へと退所していく。そんな中、「バンドを続けたい」と意志表示した仲間と、本格的にバンド活動を開始。もちろん、私もメンバーの一員。最初の2、3年、多少の入れ替わりはあったが、気がつけば15年。「継続は力なり」とはよく言ったもので、私たち全員かなりの力持ちとなった。

ピアノはキーボードからシンセサイザーにかわり、PA設備も2種類。フルートは自前だが、今やうん十萬もする高価なものに進化した。唯一ドラムセットだけは15年変わらず。ドラム担当の彼は、ライブ場所を用意していただいたドラムを叩けるのを楽しみにしている。

曲のアレンジも、最初は私がしていたが、数年前からフルート担当の彼がほとんど手がけてくれるようになった。彼の音楽的才能には、私も脱帽だ。素晴らしいアレンジをしてくれる。そして、私に対しては、コード進行表だけ手渡し、自分で考えるように気づかて（？）くれる。にこやかに練習を進めながら内心彼との戦いでもある。フルートとキーボード2人用のアレンジは出来上がっているの、その隙間を埋めるような音を考えないといけない。真剣勝負以外の何ものでもない。そして、

曲が完成した瞬間は、全員が「やった!」という満足感を味わう。皆の気持ちが一瞬になる瞬間である。その曲をステージで演奏して拍手いただける、尚一層その喜びが倍増する。だから、やめられない。

「指導」でも「療法」でも、もちろん「仕事」でもない。しかし本音を言う、そうでもないと思う時もある。出演場所、振り向けば居なくなってしまう彼らにドキドキ。機材一式運搬して一人汗してセッティング。つい、指導員と化してしまいそうになる。でも、まあステージで楽しいひと時を体験させていたただけるので、帳消ししよう。

最近では本人活動等でメンバーも忙しい休日を送るようになった。練習日を決めるのに四苦八苦してはいるが、月一回のペースを遵守。出演回数も秋から春にかけて多く、育成会の行事や地域のフェア等が中心。自分たちのコンサートは夢に見ているが、これにはどうがんばってもメンバーだけでは実現が難しい。もし、



ハートフルフェスタinひょうごのステージ

どこかで私達のステージをごらんになり、協力してくれる方がおられたら、声をかけてください! サザンパールのスターズに次いでカッコいいバンドを目指そうと、命名された筒井宮オールスターズ。16年目に突入。

♪メンバー♪

小杉伸一……フルート
日下博之……ドラム
大関知子……ボーカル
橋本 暁……ボーカル・ホイッスル
中地祥子……キーボード
北川睦子……キーボード・ボンゴ
広田みのり……キーボード・コーラス

播淡地区

「聴かせます」

ピアノの調べ

木の根学園

小池 智仁

播淡地区の有名な、ピアノの貴公子といえは小池さん。ショパンの「革命のエチュード」で、まずはご挨拶。木の根学園ひまわり工房の食堂の電子ピアノでは残響音やタッチが納得いかないようで、反復記号が点滅中。

小6の教室で、片手で弾き始めたエレクトーン。担任からの連絡帳で、ピピット閃いたお母さん、すかさず智仁さんを連れてピアノ教室へ。習い始めて一ヶ月、耳で覚えた旋律を、繊細な指先が「エリーゼのために」を奏で始めました。元々漢字が大好きで、覚える事は得意、ピアノの先生が弾く曲を丸暗記。いつのまにかレパートリーも豊富になり、15分程度の曲も何曲かあるそうです。

「山崎さんの所に○○中学校はありますか」「うふうふ」と返答に苦しむ私の顔を覗き込んでニンヤリ



ステージ上の小池智仁さん

顔の小池さん。「△△小学校は、そのしたら□□中学校は」つと、そんな言葉のキャッチボールも好きなようです。

小池さんのピアノ演奏は、この辺りでは有名で、「障害者の日」や研修会でのアトラクションで生演奏をされた方も多いのではないでしょう。中々、中々、「ばんたん・ゆうあい音楽会」でのエンディングで歌われる「今日の日はさようなら」の伴奏者としてここ十年近く活動しておられます。

小池さんの繊細な指先は、ひまわり工房でも、「教材班」の主力メンバーとして遺憾無く発揮されています。訪問した日の作業は、マッチの軸入れ作業、黙々と作業をされていきました。シーラー作業では、品物を押さえた指先がきれいで、揃うので、彼に任せれば安心です、と、近藤工房長も太鼓判。

小池さんには、もう一つの顔があります。明石青年学級のメンバーとして林崎海岸などの清掃奉仕や、年



明石愛老園での演奏風景

2回の老人施設での清掃奉仕などです。老人施設での清掃奉仕の後には、小池さんのワンマンショー。彼のピアノ演奏を楽しみにしておられるファンも多く、次会の訪問を楽しみにしておられる方も多いそうです。

ひまわり工房の毎月の誕生会での「ハッピーバースデー」の歌の伴奏も、勿論小池さんの出番です。

誰にでも才能は隠されています。タンポポ工房にはバイオリンの名手おられるそうです。私たちの施設にもいろんな才能を持った利用者がおられます。我々施設職員は、まだ隠された多くの才能の発掘者に、プロの発掘者になっていかなければならない、と思いました。

取材申込み、快く応じていただいた小池智仁さん、お母様、ひまわり工房の近藤工房長、工房のみなさま、ありがとうございます。

ぜひ、機会があれば、小池さんの生演奏をお聴きになることをお勧めします。

(記: 山崎玲輔)

施設訪問

社会福祉法人 えんびつの家

神戸市立 自立センターあづま
知的障害者通所更正施設

賀川豊彦が活躍した葺合の街中に、旧吾妻小学校舎を利用した神戸市生涯学習センター「コミスタこうべ」があります。地域で共に生きることを貫いてこれら前理事長の故玉本格先生の作られた「えんびつの家」が運営をする自立センターあづまが北校舎一階にあります。施設の目的の一つに挙げられている自己表現活動を、サリサリ教室（多種・いろいろなどという言葉だそうです）で実践されていました。教室中至る所に「素材」が溢れています。丁度、陶芸の真つ最中でした。ダイルールの壁一面には、原施設長直筆の利用者一人ひとりの特徴や好みを詠み込んだ「うた」が張っており、それが何とも言えない落着きを醸し出していました。南向きに配置された各部屋の前にはグラウンドがあります。しかしそのグラウンドは本校舎の幼稚園のグラウンド。フェンスと建物の2m程の土地で野菜作りをされています。芋の収穫が終わったばかりでしたが、僅かな土地を豊かな作物作り

に活用されていました。階上には、精神障害者の方の地域生活支援センターやリサイクル工房、ものづくり職人大学やNPOの事務所などが入っています。案内してもらいながら、これらの団体とうまく協力していければもっとと面白い

活動の場になっていけるのだが、と原施設長も言っておられました。その通りだと感じました。

今年も「個性とハートの祭典」が10月2日から自立センターあづまも参加してコミスタこうべで行なわれます。「ハートでアート」今年はどうなる作品展になるのでしょうか。帰り際、原施設長が紙バックのうちに「夢花地蔵」の絵と書を書いて頂き、感激して帰ってきました。

所在地 神戸市中央区吾妻通4・1・6

電話 078・251・8991
開設 平成十二年四月一日
施設長 原 祥 結
定員 三十名



僅かな土地での豊かな収穫

新施設訪問

社会福祉法人はなさきむら

はなさきむら作業所
知的障害者通所授産施設

姫新線で70分、ひまわり畑の南光町の千種川を見下ろす高台に、4月に開所した「はなさきむら」があります。絵本「花咲き山」から、いろいろな事業を興し、花を咲かせていきたいとの理事長の想いが、福祉作業所「ひまわり」から「はなさきむら」へと一つ花咲かせました。

自分の花を咲かせようと一市七町から利用者が集います。30年ほど前に建てられた町営の結婚式場も兼ねた会館を、バリアフリーの今様に創り直した南光町4つ目の福祉施設です。パン工房では市場性のあるパンを焼き上げるのに取り組んでおられます。木工工房では、大工の腕前を持つ職員がおり、将来は「家を建てる」作業にも挑戦したいと関野施設長が熱く語っておられました。

工芸工房では、各種アクセサリを丁寧に根気よく作っておられます。本来ならば、この部屋も階下の食堂からも真下に千種川の流れが見下ろせるのですが、長年無人の建物になっていたため、灌木が生茂り、今日も職員と利用者が、昔の眺めを取り戻す作業をやっておられました。「まむしが多いんですよ」と聞いた途端、背筋がブルッ！軟弱男は困った困った。

事務量が増え、定員にまだ余裕のある状態での出発は、支援費元年と重

なって運営は大変な状態です、関野施設長の言葉には日々のご苦労の重さを感じざるを得ませんでした。しかし、はなさきむらがめざすもの、主人公である一人ひとりの可能性をひらき、町の人たちと共に働く場をつくり、南光町が目指す「南光町ファンクラブ」事業に積極的に参画し、いろいろなスペシャルニーズのある人たちの働く場にしていく、との花は、この地で一つひとつ咲いていくのだらうと強く感じさせてもらいました。

所在地 佐用郡南光町米田字寺山3

電話 04・24
0790・78・1350
開設 平成十五年四月一日
施設長 関野 仁 美
定員 三十名



千種川べりの高台に建つ「はなさきむら」

施設訪問 社会福祉法人よい子の広場福祉会 書写ひまわりホーム

知的障害者通所授産施設

姫路ひまわり保育園での障害児受入から「書写ひまわりホーム」の歴史は始まります。毎年卒園していく子供達、十年後の進路を考えると親は不安でいっぱいになります。何とかしよう！小規模作業所を経て「書写ひまわりホーム」が四月にオープンしました。と同時に保育園の卒園児もメンバーとなりました。

姫路城の西北、書写山を背に、夢前川の流れの前に、「書写ひまわりホーム」があります。施設の前には保育園分園が建ち、児童デイサービスを行っています。広く明るい室内、厨房横のパン工房では、今月から始まった保育所向けのパン一日千個が焼き上がっていました。幼児用の丸いパンが、施設名が記されたケースが何段も積み重ねられて保育園への出荷を待っていました。玄関前の作業室では、暖衝材の袋詰作業、シュレッダーを使わないで指で裂いていきます。スイートコーンで出来た厚めの紙はきれいに裂けていくようです。裂く人、袋詰めする人、計量する人、シールで封をする人。それぞれのペースで作業は進んでいきます。片方では、リサイクル衣料のハンガー掛け、サイズや前後を揃え、規定のハンガーに掛け、フォルダーに吊るしていきます。次は5本を輪ゴムで束ねてカートに積んでいきます。その他、



右手に小学校、左手はゴルフ場広い敷地の「書写ひまわりホーム」

ラミネート加工やプラスチックボードの洗浄などの作業もやっておられました。隣の保養所の風呂の清掃業務もやっておられるとのこと、納期等には関係なく、「施設のペースで作業ができるのです」、と田藤施設長は、話されていました。

保育所から小規模、そして通所施設へと展開されてきて、次の目標もお持ちのようで、法人名通り、「広場」を益々広げていかれるような、そんな勢いを感じてきました。

所在地 姫路市書写六三四・五十
電話 0792・68・0825
開設 平成十五年四月一日
施設長 田 藤 仁 志
定員 三十名

《日誌抄》

- | | | |
|-------|----------------------------|--------|
| 3月1日 | ひょうご県知協ニュース第59号発行 | (三田市) |
| 3日 | 第5回役員会 | (三田市) |
| 6日 | 7日 近畿地区通所療育・グループホーム等職員研修会 | (大阪市) |
| 12日 | 第4回近畿地区役員会 | (和歌山市) |
| 4月10日 | 第6回役員会 | (三田市) |
| 17日 | 阪丹但地区総会・研修会 | (三田市) |
| 18日 | 神戸地区総会 | (神戸市) |
| 20日 | 第42回神戸市障害者スポーツ大会(卓球) | (神戸市) |
| 25日 | ひょうご・ゆうあいスポーツ大会最終説明会 | (三木市) |
| 30日 | 総会 | (神戸市) |
| 5月7日 | 近畿地区第1回役員会 | (三田市) |
| 9日 | ひょうご・ゆうあいスポーツ大会会場設営準備 | (三木市) |
| 10日 | 第12回ひょうご・ゆうあいスポーツ大会(三木市) | (三木市) |
| 16日 | 三木市スポーツ協会挨拶廻り | (三木市) |
| 18日 | 第42回神戸市障害者スポーツ大会(陸上競技) | (神戸市) |
| 23日 | 阪丹但地区第1回役員会 | (三田市) |
| 6月6日 | 近畿発達支援部会役員会第1回役員会 | (三田市) |
| 6日 | 第15回ばんたん親善運動会 | (姫路市) |
| 10日 | 11日 全国施設長会議 | (東京) |
| 17日 | 18日 神戸地区知的障害者福祉関係機関・施設長研修会 | (滋賀県) |
| 18日 | 兵庫県知的障害者施設保護者会協議会懇談会 | (神戸市) |
| 20日 | 兵庫県手をつなぐ育成会懇談会 | (神戸市) |
| 24日 | 25日 全国通所療育職員研究大会 | (群馬県) |
| 24日 | 25日 第9回全国福祉ホーム・グループホーム研修会 | (鹿児島県) |
| 25日 | 阪丹地区職員研修会 | (三田市) |
| 7月8日 | 新人職員研修会 | (明石市) |
| 8日 | リスクマネージャ養成研修会開始 | (神戸市) |
| 10日 | 11日 神戸地区第46回大都市社会福祉施設協議会 | (神戸市) |
| 13日 | 第42回神戸市障害者スポーツ大会(水泳) | (神戸市) |
| 30日 | 第1回施設長研修会 | (三田市) |
| 8月27日 | 28日 播磨地区一泊研修会 | (姫路市) |
| 9月1日 | ひょうご県知協ニュース第60号発行 | (姫路市) |
| 3日 | 5日 全国知的障害関係施設職員研究大会 | (千葉県) |
| 5日 | 第3回役員会 | (三田市) |
| 18日 | 福祉の集い | (神戸市) |

編集後記

地区情報 いかがでしたか。各地に有名人がいらっしゃることを知りました。また、何ヶ所かの施設を訪問して兵庫県の大さを実感した7月でした。

あなたの施設の有名人を紹介して下さい。
(広報担当 山崎玲輔)